生成 AI の学修・教育活用ガイドライン（教員向け）

第 1 版（2025 年 7 月公開）

1.　ガイドラインの目的

　このガイドラインは、東北福祉大学（以下「本学」という。）の学修や教育活動において生成 AI を適切に活用するための指針を提供するものです。生成 AI は教育や学びの質を向上させる一方で、学問的誠実性や倫理的・法的な課題が伴います。これらの側面を考慮し、安全かつ効果的に活用してください。生成 AI 利用時の課題に関する詳細は「東北福祉大学の生成 AI の利用ガイドライン」[1] に記載しておりますので、そちらも必ずご確認ください。

2.　学修・教育目的における基本的な考え方

学修・教育目的における生成 AI の利用について、基本的な指針は以下のとおりです。

1. 教育と学びの質の確保：

　　教育活動において生成 AI を利用する際には、学生の学びの質を担保することが重要です。また、生成 AI が提供する情報の真偽を確認し（ファクトチェック）、最終的な判断は自身の責任で行います。

2. 倫理的・法的・社会的側面の理解:

　　生成 AI の利用に伴う倫理的、法的、社会的課題について理解しておく必要があります。特に、個人情報保護や著作権などに配慮し、適切な利用を心がけます [1]。

3. 他者や社会のためへの利用:

　　生成 AI を利用することで得られる自身の学びや成果を他者や社会のために役立てることを念頭に置き、その利用によって生じる他者や社会への影響に配慮することを推奨します。

3. 授業における生成 AI の利用

授業で生成 AI を利用する場合、以下の点に注意してください。

(1) 生成 AI 使用の可否の明示:

担当教員は、科目における到達目標やポリシーを踏まえて、授業内で生成 AI を利用するか否かを学生に明示します。その際、必要に応じて、利用意図や生成 AI の利用範囲についても説明してください。

(2) 適切な利用の指導:

授業における生成 AI の利用を認める場合、担当教員は、生成 AI の技術的性質や、AI が提供する情報には誤情報やハルシネーションが含まれるため、その正確性を確認しないと誤情報を利用してしまうリスクを含む点についての理解を学生に対して促すとともに、適切な利用方法（引用等）を指導してください。

提示例

・授業における生成 AI 使用の可否提示の例 1

本科目の到達目標は、授業内容、及び、先行研究に基づいて◯◯に関する議論を自身で組み立てることができるようになることである。生成 AI の利用は授業で説明するトピックに関するブレインストーミングなどにおいて有用であるため、学修活動に利用することを許可する。ただし、生成 AI が生成する情報には誤りが含まれていることを十分理解し、指定の参考書やその他の文献と照らし合わせて正確性を確認しながら利用すること。また、学修活動における生成 AI の利用は認めるが、課題において生成 AI を用いることは禁止する。

・授業における生成 AI 使用の可否提示の例 2

生成 AI を用いたエッセイ作成を許可するので、生成 AI にエッセイを作成させ、その批評を行ってください。ただし、生成 AI の生成テキストと自身の批評や意見については明確に区別できるようにしてください。

・授業科目における適切な使用やリスクに関する説明の例

次回の講義では ChatGPT を用いて◯◯に関するブレインストーミングを実施するため、各自で

ChatGPT への登録を行っておくこと（アカウントは無料版で構わない）。ただし、ChatGPT に入力した内容は OpenAI 社の学修データとして用いられるため、個人情報や機密情報は絶対に入力しないこと。また、生成 AI が生成する情報には誤りが含まれていることを十分理解し、指定の参考書やその他の文献と照らし合わせて正確性を十分に確認しながら利用すること。

4. 課題における利用

科目担当教員は課題における生成 AI の使用の可否を明示してください。本学において、課題は学生本人が作成することを前提としているため、生成 AI が出力した文章、プログラムソースコード などを自身の作成物として提出することは原則として認められません。ただし、学修目標や課題の性質を踏まえて、担当教員の判断により使用を許可する場合がありえます。担当教員は、課題の目的を明確に説明し、生成 AI の使用範囲について指導してください。

提示例

・課題における生成 AI 使用の可否提示の例 1

本課題の目的は、○○に関して学生自身の理解を評価することである。そのため、課題に取り組む際の生成 AI の使用を一切禁止する。

・課題における生成 AI 使用の可否提示の例 2

本課題では、生成 AI を用いて○○に関するエッセイを作成し、その内容を批評することを目的とする。以下の手順に従って課題に取り組むこと。

I. 生成 AI（例：ChatGPT）に○○をテーマにしたエッセイを生成させる。

II. 生成されたエッセイを基に、その内容を批評し、自身の意見や考察を加える。

III. レポートには生成 AI が出力したテキスト、自身による批評、考察の順番で生成 AI の生成テキストと自身の意見や考察が明確に区別可能なように記載する。

文末に以下の情報を記載する

(i) 使用した生成 AI の種類

(ii) 文章を生成した年月日

(iii) 用いたプロンプトの文言（AI にどのように指示したか）

5. 不正利用の防止

（1） 使用可否の明示

3.及び 4. で述べましたが、担当教員は利用の禁止も含めて授業及び課題における生成 AI の使用の可否を明示してください。また、その際に、意図や使用可能な範囲についても説明してください。

（2） 評価方法の工夫

不正防止のためには、生成 AI の利用が困難な課題設定（例：個人的な体験と学修内容を関係させる）が考えられます。また、レポート課題やそれに類する非対面課題の評価比率を下げ、不正利用が生じにくい評価方法、例えば、プレゼンテーションや口頭試問などを導入することも考えられます。

（3） 不正が疑われる場合の対応

レポート課題等において生成 AI の不正利用が疑われる場合があっても、現時点では生成 AI の使用検出ツール（例： Turnitin の AI 検出機能）によって正確にその利用を検出することは不可能です。そのため、それを念頭において、慎重にご対応ください。担当教員が学生と確認する手順の一例としては以下が考えられます。

I. 疑わしい箇所の特定

提出課題の中で生成 AI によって作成されたと思われる箇所を特定します。文章のスタイルや語彙・文法が異なる、不自然な情報や回答が含まれている、文毎の内容は適切だが文章全体として内容が首尾一貫していない などが兆候です。

II. 学生との面談

不正使用の疑いがある学生と面談し、学生に対して提出課題の特定の部分について説明を求める、又は、それが学生自身の独自の考察や意見であることを確認します。面談では、疑わしいと判断した根拠を具体的に提示し、できる限り丁寧な説明に努めてください。

III. 追加の確認 学生の説明を踏まえながら、検出ツールなど他の情報源との比較、確認を行います。
以上を慎重に踏まえ、不正利用が明らかになった場合は本学の「試験規程　第４章」に基づいて対応してください。

6. 参考情報

1. 東北福祉大学, 2024, 『「東北福祉大学の生成 AI の利用ガイドライン」』
2. 上智大学，2023，『教育における生成 AI 利用に関するガイドラインについて』, https://piloti.sophia.ac.jp/jpn/article/news/general/guideline20231023/, (参照 2024-05-31).
3. Mollick, E. R., & Mollick, L. (2022). “New Modes of Learning Enabled by AI Chatbots: Three Methods and Assignments.” SSRN. https://ssrn.com/abstract=4300783, (参照 2024-05-31).
4. 東京大学 大学院工学系研究科 吉田墨研究室ホームページ，ChatGPT・AI の教育関連情報まとめ https://edulab.t.u-tokyo.ac.jp/chatgpt-ai-resources, (参照 2024-05-31).
5. 倫理・法・社会的課題について
   人工知能学会(会長津本周作／倫理委員会), 2023, 『人工知能学会としての大規模モデルに対してのメッセージ』 https://www.ai-gakkai.or.jp/ai-elsi/archives/info/人工知能学会としての大規模生, (参照 2024-05-31).
6. カテライ・アメリア, 井出和希, 岸本充生, 2023, 「生成 AI（Generative AI）の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）論点の概観： 2023 年 3 月版」『ELSI NOTE』26, 大阪大学社会技術共創研究センターhttps://elsi.osaka-u.ac.jp/research/2120, (参照 2024-05-31).
7. 内閣府 AI 戦略会議, 2023, 『AI に関する暫定的な論点整理』 https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_senryaku/2kai/ronten.pdf
8. 日本ディープラーニング協会, 2023, 『生成 AI の利用ガイドライン【簡易解説付】(2023 年 5 月公開)』 https://www.jdla.org/document, (参照 2024-05-31).

7. 参考：想定される生成 AI の利用例と利用目的

・授業での利用:

授業中に生成 AI を活用して学生に対するインタラクティブな学修活動を行うことが可能です。具体的には、文章を作成する授業において、生成 AI を使用して異なる文体スタイルのエッセイを複数生成し、文体分析の練習を行うことができます。また、生成 AI を利用して学生の質問にリアルタイムに回答を提供することで、学修効率の向上が期待できるだけでなく、AI が提供する情報には誤情報やハルシネーションが含まれるため、正確性を確認し、誤情報の利用を防ぐ AI リテラシー教育にもなります。

・文章作成支援での利用:

学生の皆さんがレポート課題 等を作成する際のアイデア出しへの生成 AI の利用が考えられます。ただし、あくまでアイデア出しへの利用であり、生成された内容をそのまま提出するのでは意味がありません。したがって、学生の皆さんは、生成 AI との対話の中からアイデアを見出して、自身の考えを整理することに利用できますが、最終的な提出物は必ず自身の言葉で書き直して表現するとともに、独自の分析と考察を加えることが必須です。

・語学における会話練習への利用：

生成 AI を用いることで、様々なシナリオや状況を想定した会話練習が可能になります。利用者は特定のテーマや場面を指示し、AI との対話を通じて実践的な言語能力を向上させることができます。例えば「レストランでの食事予約」や「空港でのチェックイン」といった具体的なシナリオを設定し、それに適したフレーズや応答を学ぶことができます。最近は音声入力が可能なサービスもあるので、単語や構文のみでなく、正確な発音についても、リアルタイムでのフィードバックを受けながら学修できます。

・自分用の学修教材生成への利用：

利用者の習熟度、興味関心、学修スタイルに合わせて、生成 AI に指示することで個人用の学修教材の作成が可能です。例えば、学修者が苦手とする文法事項を集中的に練習する問題集や、興味のある話題についてのリーディング教材など、利用者のニーズに合わせた教材を自動生成させることができます。また、利用者の理解度に応じて、教材の難易度を適宜調整することも可能です。これにより、利用者は自分のペースで効率的に学修を進めることができます。

・文章添削への利用：

学修者が学んでいる言語で書いたエッセイやレポートを、生成 AI は添削してフィードバックを提供することができます。その際、単なる文法の誤りの指摘だけでなく、文章構成、語彙選択、論理展開などについても、具体的な改善案を提示します。さらに、利用者の文章をより自然な表現に書き換えたり、文章の一部を生成 AI が完成させたりすることで、学修者はネイティブに近い表現力を身につけることができます。また、利用者の興味関心に合わせて、エッセイのトピックを提案したり、関連する情報を提供したりすることで、ライティング力だけでなく、総合的な言語運用能力が向上します。